

大好き☆出雲! vol.22 通信

～発見! 発信! とっておきの 場所・人・もの～

出雲ブランド化推進の情報を連載します。

現代版「出雲国風土記」を作成しています!

733年(天平5)に完成した「出雲国風土記」は、当時の寺院や神社・山野・河川・海・地形などについてまとめられた1300年前の島根県東部の様子がわかる書物です。全国に数ある風土記の中で完本状態で残っているのは「出雲国風土記」だけと言われています。

出雲ブランド化推進市民委員会(大好き☆出雲! 倶楽部)では、風土記作成当時の記述に思いをはせながら、同委員会が取材した自然、地域、食、人など現代の出雲の魅力を盛り込み、年度内完成をめざして現代版「出雲国風土記」の編集作業を進めています。

大好き☆出雲! 倶楽部は、昨年11月、神西の南部広域農道沿いにある「那賣佐神社」を訪れました。神社の横を進むと神西城址に登ることができ、神西湖だけでなく日本海も臨めます。また、地域が誇る観光スポットとして地域から推薦いただいた「岩坪」にも訪れてみました。オオクニヌシノミコトの正妻であるスセリヒメが産湯に使ったといわれる「穴」です。

少しだけでも神話を学んだうえで訪問すると、また違った魅力が発見できます。

出雲市には、たくさんの魅力があります。現代版「出雲国風土記」は、今なお残る風土記の時代の面影を見つけていただくものにまとめていければと考えています。



大好き☆出雲! 倶楽部による取材の様子(那賣佐神社・岩坪)

おたすね / 出雲ブランド化推進市民委員会(大好き☆出雲! 倶楽部)事務局 出雲ブランド室 ☎21-6274

国際交流のひろば

vol.7

出雲で暮らす外国人と交流!(日本語ボランティア教室)

市では、市内で暮らす外国人を対象に、市内4か所で「日本語ボランティア教室」が開かれています。教室には、日本語を学んで生活に役立てたいという外国人の皆さんが通っています。

教室で日本語を教えるスタッフは、ボランティアのみなさんです。教室ごとに、テキストなどを使い、ひらがな、カタカナの読み書きから、簡単なあいさつ、買い物でのやりとりなどの場面を使う日本語を教えます。遠足や交流会などを行う教室もあります。

日本語ボランティア教室は、外国人に日本語を教える場であるとともに、外国人と日本語を使って交流し、お互いの共通点や違いなどを発見できる身近な国際理解の場です。

市内4か所の日本語ボランティア教室では、スタッフを募集しています。資格、指導経験、語学力は問いません。各教室の日時、会場など詳しい内容については、国際交流室へおたすねください。



平成26年度日本語ボランティアスタッフ研修会 (日本語ボランティアに興味をお持ちのみなさんの参加大歓迎!)



- 講師: 時光氏[(特非)多文化共生マネージャー全国協議会事務局長]
- と き: 3月18日(水)13時30分～15時30分
- と ころ: 市役所1階くにびき大ホール
- 内容(予定): 外国人学習者の視点からの日本語ボランティア教室
出雲市日本語ボランティアグループ紹介

受講料は無料ですが、氏名・連絡先を3月17日(火)までに国際交流室へ電話もしくは電子メールでお知らせください。

おたすね / 国際交流室 ☎21-6576
電子メール: kokusai@city.izumo.shimane.jp

となりの

ミコトツキ

トキとツルの違いについて

第11回



出雲市トキ分散飼育センターに、市内の田んぼにトキがいると連絡があり、現地に行ってみるとトキではなくマナヅルだったということがありました。

日本で主に見られるツルはタンチョウ、マナヅル、ナベヅルの3種です。タンチョウは北海道に留鳥（二年中ほぼ同じ地域に住む）として定着していますが、マナヅル、ナベヅルは冬に日本にやってくる渡り鳥です。これらのツルとトキは色合いや姿が似ています。タン

チョウ、マナヅルの頭頂部やマナヅルの顔が赤いのは皮膚が露出しているためで、トキの顔が赤いのと共通しています。

しかし、トキに比べると、ツルの方が、体が大きく、全長（くちばしの先から尾の先）はトキが75cmに対し、タンチョウが138cmと約

2倍の大きさです。また、ツルはトキよりも首も脚も長いので見

分けることができます。

ツルは雑食で、トキは動物食であるなどの違いもあります。

今回は、トキの羽の色の変化について紹介します。

左から
ナベヅル、タンチョウ、
マナヅル、トキ



ナベヅル、タンチョウの写真提供：出水市ツル博物館クレインパークいずみ（鹿児島県）

おたすね／出雲市

トキ分散飼育センター ☎ 201350

高松地区の子育て活動

「高松のおうち『てほむ』」

高松地区は近年、アパートやマンションなどが増え、核家族での子育て世代が多くなりました。そこで、お母さんたちの孤独な子育ての不安をなくし、友達作りの場所になる「おうち」のような場所になればいいなという思いで月2回、高松地区子育て広場『てほむ』を開催しています。親子で楽しく遊ぶ、こどもの健康を考える、おいしいおやつや食事作り、バスに乗って芋ほり、時にはお母さんのリラックスタイムや創作活動等、毎回楽しく過ごせるようにしています。

この活動は主任児童委員が中心となり、民生委員児童委員、子育てサポーターや地域のボランティアの人達などが、いつも温かい笑顔で



湖陵町の「芋ほり観光農園」での楽しいひと時です。

えがおになあれ

54

子どもたちが明るく元気に育つのを
見ると、未来に希望を感じます。
毎日を心豊かに過ごし、子どもも大人
も、「えがおになあれ」…そんな願いを
込めて、このコーナーを設けました。
(出雲市要保護児童対策地域協議会)

要保護児童対策地域協議会は、子どもが健やかに育つよう社会のさまざまな機関が子育て中の家庭を見守り、必要に応じて支援し、児童虐待等のない社会を目指すために組織したものです。

迎えます。また、市の保健師さんに来てもらうので、子ども達の健康面での心配ごとなども相談できます。

このように楽しく過ごす中、ちょっと気になる子どもや、子育てで不安や疲れを見せるお母さんの姿もあります。そこで、スタッフがそれぞれに接し、感じたことなどを情報交換し、保健師さんとも話し合い、個別の支援につなげていけるようにしています。

あかちゃんの声かけ訪問で、初めて出会う、子育て広場を知り、出かけてきた時にまた同じ笑顔に会える、地域に温かく見守ってくれる人がいるという安心感を、子育て中の人達の支えにしてほしいと思います。

(執筆…出雲市民生委員)

児童委員協議会高松地区

おたすね／子育て支援課

☎ 216604



芋ほり遠足で掘ってきたお芋でおいしいおやつを作りました。